

平成20年10月 9日

国土交通省道路局長 様

滝上町長 長屋 栄一



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

標記の件について、別紙のとおり提出いたしますので宜しくお取り計らい願います。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道滝上町

一般国道の高速化、適正な維持管理及び冬期間の交通確保等は、本町のみならず、過疎地の多くが要望しているものと思われる。真に必要な道路整備は、費用対効果のみに固執し判断するものではなく、交通を道路のみに依存する地域の実情を踏まえ、計画的に進めていただけるよう要望するものである。

今後の道路行政についての意見・提案

②－1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

北海道滝上町

○現状

国道273号は、オホーツク圏と道央・十勝圏を結び、本町を縦断する主要幹線である。昭和59年の浮島トンネル開通と今後の高規格幹線道路開通に伴う連絡道路としてもますます重要性が認知されているところである。

○課題

国道273号は、浮島トンネルまでに急カーブが数か所あり、過去には重大な事故も発生している。交通事故の原因は運転者のマナーによるところが多いのだが、通行しやすい線形の改良が望まれるところである。また、本路線には通学路も含まれており、現在も、小学生が国道路肩部分を歩いて通学する箇所があり、その対策が望まれているところである。

浮島トンネル内の照度については、トンネル走行の安全確保という観点から照度の改善を要望してきており、協議も進められている。

浮島トンネルの開通により、その利便性が向上したが、道路状況に係る詳細な状況を把握できる状態になっておらず、積雪等の天候の変化、災害の発生、交通事故の発生、路面状況の悪化等急激な変化に対応できないと考える。また、トンネル内の電話とトンネル出入口の公衆電話が整備されているものの、浮島峠一帯は携帯電話も圏外であるため通報にも支障がある。

高規格幹線道路旭川・紋別自動車道については、今後の開通を待つばかりだが、「浮島IC」から、いかにして滝上町、紋別市、西紋別地区に誘導するかが、地域振興において重要な課題となっている。

本町は、豊かな森林に囲まれた農村景観のもと、良質な農産物、芝ざくらや溪谷等の観光資源、童話村構想等の多様な資源を持ち、これらを活かし、創り、育て、組み合わせることによって、新たな産業をおこし、人を育み、豊かな生活の実現につなげていくことができるまちである。

まちづくりは、人の知恵、環境、地域資源を組み合わせながら推進する、いわば編集作業に他ならない。滝上町はそうした素材にあふれたまちであり、それらを活かしながら、21世紀においても自らの資源と活力で発展していけるまちをめざす。

- ・地域資源の編集による力強い産業基盤づくりをめざす
- ・自立性と個性に富んだ人づくりをめざす
- ・地域ぐるみによる安心、安全なまちづくりをめざす
- ・快適で質の高い生活環境づくりをめざす
- ・信頼と協働による住民主体のまちづくりをめざす

(第4期滝上町総合計画)